

# 瀬田川プランクトン調査結果速報

～第40報～

**NEW** 2004年1月からピコ植物プランクトン情報を追加しました。

滋賀県立衛生環境センター  
琵琶湖水質担当  
平成16年1月13日

## 1. 最も数が多かった種類（優占種）

植物プランクトン第1優占種



*Uroglena americana*  
(ウログレナ)  
黄色鞭毛藻類

楕円形の細胞が球状の寒天質の表層に規則正しく配列し、球状の群体を形成する。各細胞は不等長の2本の鞭毛を有する。

動物プランクトン第1優占種



*Polyarthra vulgaris*  
(ハネウデワムシ)  
輪虫類

体は四角く、横に鳥の羽状の付属物が4ヶ所付いている。  
前部に2本の触角がある。

コメント

植物プランクトン、動物プランクトンともに先週と同じ種類が優占種となった。今回動物プランクトンの第2優占種として、ナガマルドロワムシが見られた。本種は水温の低いところで多く出現する種類であり、毎年冬に増加する種類である。ピコ植物プランクトン数は、先週に引き続き少ない細胞数であった。

## 2. 見つかった主なプランクトンとその数（個体数）

### (1) 動物プランクトン

第 1 優 占 種		個体数 (個体 / l)
輪虫類	<i>Polyarthra vulgaris</i>	290

第 2 優 占 種		個体数 (個体 / l)
輪虫類	<i>Synchaeta oblonga</i>	100

\* 個体数については、プランクトンネットで採取したものを直接検鏡して計測した。

# 瀬田川植物プランクトン調査結果速報

滋賀県立衛生環境センター  
琵琶湖水質担当

## (2) 植物プランクトン

平成16年1月13日

第40報

(網) 種 名	細胞数 (群体数)	優占種(占有率)	
		数	体積
(黄鞭) <i>Uroglena americana</i>	610		
(黄鞭) <i>Pseudokephyrion gallicum</i>	10		
(黄鞭) <i>Chrysamoeba radians</i>	10		
(黄鞭) <i>Synura petersenii</i>	25		
(珪) <i>Melosira granulata</i> var. <i>angustissima</i>	38		
(珪) <i>Fragilaria crotonensis</i>	60		
(珪) <i>Asterionella formosa</i>	40		
(珪) <i>Cymbella</i> sp.	10		
(珪) <i>Navicula</i> sp.	10		
(褐) <i>Cryptomonas</i> sp.	240		
(褐) <i>Rhodomonas</i> sp.	200		
(藍) 藍藻綱	0	0.0	0.0
(黄) 黄緑藻綱	0	0.0	0.0
(黄鞭) 黄色鞭毛藻綱	655	52.3	25.2
(珪) 珪藻綱	158	12.6	10.8
(渦) 渦鞭毛藻綱	0	0.0	0.0
(褐) 褐色鞭毛藻綱	440	35.1	64.0
(み) みどり虫藻綱	0	0.0	0.0
(緑) 緑藻綱	0	0.0	0.0
(他) その他のプランクトン	0	0.0	0.0
総細胞数	1253	総体積	6.91E+05
種類数	11	( $\mu\text{m}^3$ )	

- 注1) 細胞数の単位は(細胞/ml)  
ただし\*印の種は群体数(群体/ml)
- 注2) 優占種は が第1優占種、 が第2優占種  
数字は各綱ごとの占有率(単位:%)
- 注3) 細胞体積は、顕微鏡観察による画像から  
試験的に推定した概算値である。

## (3) 見つかったピコ植物プランクトンとその数(細胞数)

ピコ植物プランクトン数	1月13日 細胞数/ml
藍藻類 <i>Synechococcus</i> sp.	10,000

注1) プランクトンを大きさ別に分類したとき、大きさが0.2~2 $\mu\text{m}$ (1 $\mu\text{m}$ は1mmの1,000分の1)の最も小さなランクのものをピコプランクトンと呼んでいます。この中で光合成色素を持つものをピコ植物プランクトンと呼んでいます。ピコ植物プランクトンは細菌と同じくらい小さいので、観察するためには落射蛍光顕微鏡を用いて観察し計数します。